

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号
特許第5142015号
(P5142015)

(45) 発行日 平成25年2月13日 (2013. 2. 13)

(24) 登録日 平成24年11月30日 (2012. 11. 30)

(51) Int. Cl.	F I
B 6 5 D 47/06 (2006. 01)	B 6 5 D 47/06 K
B 6 5 D 41/26 (2006. 01)	B 6 5 D 41/26
B 6 5 D 41/04 (2006. 01)	B 6 5 D 41/04 Z
B 6 5 D 47/34 (2006. 01)	B 6 5 D 47/34 Z
B 6 5 D 77/06 (2006. 01)	B 6 5 D 77/06 E

請求項の数 13 (全 15 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願2007-235807 (P2007-235807)	(73) 特許権者	000002897
(22) 出願日	平成19年9月11日 (2007. 9. 11)		大日本印刷株式会社
(65) 公開番号	特開2009-67415 (P2009-67415A)		東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
(43) 公開日	平成21年4月2日 (2009. 4. 2)	(74) 代理人	100075812
審査請求日	平成22年5月10日 (2010. 5. 10)		弁理士 吉武 賢次
		(74) 代理人	100091982
			弁理士 永井 浩之
		(74) 代理人	100096895
			弁理士 岡田 淳平
		(74) 代理人	100117787
			弁理士 勝沼 宏仁
		(72) 発明者	植 松 裕
			東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
			大日本印刷株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 容器装置およびキャップ保持体

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

開口が形成された上面を有する内容物容器と、
前記内容物容器の上面に配置される天板と、該天板から上方へ延びる上方筒状部と、該天板から下方へ延びるとともに前記内容物容器の開口内に挿入される下方筒状部とからなる筒状部とを有するキャップ保持体と、
を備え、前記下方筒状部は下端に向かって徐々に外径が小さくなり、前記開口に対応する下方筒状部の部分の外径は前記開口より大きくなっており、
前記上方筒状部にディスペンサを装着したことを特徴とする容器装置。

【請求項 2】

前記内容物容器および前記キャップ保持体の筒状部はいずれもプラスチック製となっており、前記内容物容器は前記キャップ保持体の筒状部より硬質の材料で形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の容器装置。

【請求項 3】

前記キャップ保持体は前記天板から下方へ延び前記内容物容器の側面上部に係合する肩部を有することを特徴とする請求項 1 記載の容器装置。

【請求項 4】

前記キャップ保持体は、前記肩部から下方へ延びて前記内容物容器を外方から囲む脚部を有することを特徴とする請求項 3 記載の容器装置。

【請求項 5】

前記キャップ保持体は、前記天板から下方へ延びて前記内容物容器を外方から囲む側板を有することを特徴とする請求項 1 記載の容器装置。

【請求項 6】

前記キャップ保持体とともに前記内容物容器を外方から囲む囲い体を更に備えたことを特徴とする請求項 1 記載の容器装置。

【請求項 7】

前記囲い体は内容物容器を支持する底面を有することを特徴とする請求項 6 記載の容器装置。

【請求項 8】

前記囲い体は底面から上方に延びる側面を有することを特徴とする請求項 6 記載の容器装置。

10

【請求項 9】

前記囲い体は、複数部分に分割自在となることを特徴とする請求項 6 記載の容器装置。

【請求項 10】

内容物容器上に装着されるキャップ保持体において、

前記内容物容器の上面に配置される天板と、

該天板から上方へ延びる上方筒状部と、該天板から下方へ延びるとともに前記内容物容器の開口内に挿入される下方筒状部とからなる筒状部とを備え、前記下方筒状部は下端に向かって徐々に外径が小さくなり、前記開口に対応する下方筒状部の部分の外径は前記開口より大きいことを特徴とするキャップ保持体。

20

【請求項 11】

前記キャップ保持体は、前記天板から下方へ延び前記内容物容器の側面上部に係合する肩部を有することを特徴とする請求項 10 記載のキャップ保持体。

【請求項 12】

前記キャップ保持体は、前記肩部から下方へ延びて前記内容物容器を外方から囲む脚部を有することを特徴とする請求項 10 または 11 記載のキャップ保持体。

【請求項 13】

前記キャップ保持体は、前記天板から下方へ延びて前記内容物容器を外方から囲む側板を有することを特徴とする請求項 10 記載のキャップ保持体。

【発明の詳細な説明】

30

【技術分野】

【0001】

本発明は、シャンプー、リンス等の内容物を収納する容器装置およびそのキャップ保持体に関する。

【背景技術】

【0002】

従来より内容物を収納するとともにディスペンサ機能を有する容器装置として、外容器と、内容物が充てんされた内容器と、ディスペンサとを有する詰め替え容器装置が開発されている。

【0003】

40

このような容器装置は、内容物がなくなった場合、内容器のみを交換すれば良いので、容器装置全体を廃棄する必要はなく、廃棄物公害を防止することができる。

【特許文献 1】実願平 5 - 66398 号（実開平 7 - 31671 号）の CD-ROM

【特許文献 2】特開平 7 - 300131 号公報

【特許文献 3】特開平 9 - 202342 号公報

【特許文献 4】特開 2006 - 298498 号公報

【特許文献 5】実願平 4 - 57681 号（実開平 6 - 14054 号）の CD-ROM

【特許文献 6】特開 2006 - 341861 号公報

【特許文献 7】実願平 4 - 48622 号（実開平 6 - 3459 号）の CD-ROM

【特許文献 8】特開平 9 - 86579 号公報

50

【特許文献 9】特開平 1 1 - 2 3 6 0 8 4 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 4 】

上述のように廃棄物公害を防止する容器装置が開発されているが、容器の交換作業および内容物の注出作業をよりスムーズに行なうことができる容器装置は未だ開発されていないのが実情である。

【 0 0 0 5 】

本発明はこのような点を考慮してなされたものであり、容器の交換作業および注出作業を容易に行なうことができる容器装置およびそのキャップ保持体を提供することを目的とする。

10

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

本発明は、開口が形成された上面を有する内容物容器と、前記内容物容器の上面に配置される天板と、該天板から上方へ延びる上方筒状部と、該天板から下方へ延びるとともに前記内容物容器の開口内に挿入される下方筒状部とからなる筒状部とを有するキャップ保持体と、を備え、前記下方筒状部は下端に向かって徐々に外径が小さくなり、前記開口に対応する下方筒状部の部分の外径は前記開口より大きくなっており、前記上方筒状部にディスプレイを装着したことを特徴とする容器装置である。

20

【 0 0 1 1 】

本発明は、前記内容物容器および前記キャップ保持体の筒状部はいずれもプラスチック製となっており、前記内容物容器は前記キャップ保持体の筒状部より硬質の材料で形成されていることを特徴とする容器装置である。

【 0 0 1 2 】

本発明は、キャップ保持体は、天板から下方へ延び内容物容器の側面上部に係合する肩部を有することを特徴とする容器装置である。

【 0 0 1 3 】

本発明は、キャップ保持体は、肩部から下方へ延びて内容物容器を外方から囲む脚部を有することを特徴とする容器装置である。

【 0 0 1 4 】

30

本発明は、キャップ保持体は、天板から下方へ延びて内容物容器を外方から囲む側板を有することを特徴とする容器装置である。

【 0 0 1 5 】

本発明は、キャップ保持体とともに内容物容器を外方から囲む囲い体を更に備えたことを特徴とする容器装置である。

【 0 0 1 6 】

本発明は、囲い体は内容物容器を支持する底面を有することを特徴とする容器装置である。

【 0 0 1 7 】

本発明は、囲い体は底面から上方に延びる側面を有することを特徴とする容器装置である。

40

【 0 0 1 8 】

本発明は、囲い体は、複数部分に分割自在となることを特徴とする容器装置である。

【 0 0 1 9 】

本発明は、内容物容器上に装着されるキャップ保持体において、前記内容物容器の上面に配置される天板と、該天板から上方へ延びる上方筒状部と、該天板から下方へ延びるとともに前記内容物容器の開口内に挿入される下方筒状部とからなる筒状部とを備え、前記下方筒状部は下端に向かって徐々に外径が小さくなり、前記開口に対応する下方筒状部の部分の外径は前記開口より大きいことを特徴とするキャップ保持体である。

【 0 0 2 1 】

50

本発明は、キャップ保持体は天板から下方へ延び内容物容器の側面上部に係合する肩部を有することを特徴とするキャップ保持体である。

【 0 0 2 2 】

本発明は、キャップ保持体は、肩部から下方へ延びて内容物容器を外方から囲む脚部を有することを特徴とするキャップ保持体である。

【 0 0 2 3 】

本発明は、キャップ保持体は、天板から下方へ延びて内容物容器を外方から囲む側板を有することを特徴とするキャップ保持体である。

【発明の効果】

【 0 0 2 4 】

以上のように本発明によれば、容器装置の内容物容器を容易かつ簡単に交換することができる。また内容物容器にキャップ保持体を装着することにより、このキャップ保持体にディスペンサ、あるいは他の密閉キャップを取付けることができる。

さらにまた、下方筒状部は下端に向かって徐々に外形が小さくなっているため、内容物容器の開口内にキャップ保持体の下方筒状部を容易に挿着することができる。また、開口に対応する下方筒状部の部分の外径は開口より大きくなっているため、内容物容器の開口内にキャップ保持体の下方筒状部を挿着した場合、内容物容器の開口内に下方筒状部を密封した状態で挿着することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 2 5 】

第 1 の実施の形態

以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。

【 0 0 2 6 】

図 1 乃至図 7 は本発明による容器装置およびキャップ保持体の第 1 の実施の形態を示す図である。

【 0 0 2 7 】

図 1 乃至図 7 に示すように、容器装置 1 0 は、円形状開口 1 2 a が形成された上面 1 2 b を有し、内容物としてシャンプーが充てんされた紙製の円筒状内容物容器 1 2 と、内容物容器 1 2 の上面 1 2 b に装着された円形状のキャップ保持体 1 5 とを備えている。

【 0 0 2 8 】

このうち、キャップ保持体 1 5 は、プラスチック製となっており、内容物容器 1 2 の上面 1 2 b に配置される天板 1 3 と、天板 1 3 から下方に延びる肩部 1 4 とを有している。そしてキャップ保持体 1 5 は肩部 1 4 を内容物容器 1 2 の側面 1 2 c 上部に係合させることにより内容物容器 1 2 に装着される。

【 0 0 2 9 】

またキャップ保持体 1 5 は天板 1 3 から上方へ延びる円形の上方筒状部 1 6 と、天板 1 1 から下方へ延びる円形の下方筒状部 1 7 とを有し、これら上方筒状部 1 6 と下方筒状部 1 7 とから筒状部 1 6 , 1 7 が構成されている。。さらに上方筒状部 1 6 にディスペンサ 3 0 が取付けられ、下方筒状部 1 7 は内容物容器 1 2 の上面 1 2 b に形成された円形状開口 1 2 a 内に挿着されている。

【 0 0 3 0 】

次にディスペンサ 3 0 について、図 3 により説明する。ディスペンサ 3 0 は内キャップ 1 5 の上方筒状部 1 6 に固定される保持体 3 1 と、保持体 3 1 から下方へ延びるタンク 3 2 と、保持体 3 1 およびタンク 3 2 を貫通して摺動自在に設けられたステム（図示せず）とを有し、ステム 3 5 の上部に操作ヘッド 3 4 が取付けられている。この場合、ディスペンサ 3 0 の保持体 3 1 は上方筒状部 1 6 の外ねじ 1 6 a にねじ込み固定される。

【 0 0 3 1 】

また操作ヘッド 3 4 を上下方向に移動させることにより、内容物容器 1 2 内の内容物がノズル 3 3 を経てタンク 3 2 へ送られ、その後タンク 3 2 から操作ヘッド 3 4 の注出口 3 4 a から外方へ注出される。

10

20

30

40

50

【 0 0 3 2 】

次に各構成部材について更に説明する。キャップ保持体 1 5 の下方筒状部 1 7 は下端 1 7 a に向って徐々に外径が小さくなっている。下方筒状部 1 7 は内容物容器 1 2 の開口 1 2 a 内に挿着されるが、開口 1 2 a に対応する下方筒状部 1 7 の部分の外径を ϕA とした場合、内容物容器 1 2 の開口 1 2 a は当初 $\phi A - 0.5 \text{ mm}$ 程度となっており、下方筒状部 1 7 側の外径が内容物容器 1 2 の開口 1 2 a より大きくなって開口 1 2 a 内に下方筒状部 1 7 a を密封して挿着することができるようになっている。また使い置き時に容器装置が転倒した場合にも、不容易に内容物容器 1 2 内の内容物が漏れ出しにくい構造となっている。

【 0 0 3 3 】

10

また図 4 に示すように、下方筒状部 1 7 の下端（先端）1 7 a を、その軸線に対して傾斜させてもよい（図 4（a））。このように下方筒状部 1 7 の下端 1 7 a を傾斜させるとともに、下方筒状部 1 7 の外径を下端 1 7 a に向って小さくすることにより、下方筒状部 1 7 を内容物容器 1 2 の開口 1 2 a に対して単に押込むだけで容易に挿着することができ、かつ、キャップ保持体 1 5 を内容物容器 1 2 に回転させながら装着する場合に、内容物容器 1 2 の開口 1 2 a に下方筒状部 1 7 を無理なく回転して装着することができる。

【 0 0 3 4 】

なお、下方筒状部 1 7 の下端 1 7 a に、多数の凹凸形状を形成し、下方筒状部 1 7 を開口 1 2 a 内に挿入し易くしてもよい（図 4（b））。また下方筒状部 1 7 の下端 1 7 a に一対の凸部を形成して、下方筒状部 1 7 を開口 1 2 a に挿入し易くしてもよい（図 4（c））。

20

【 0 0 3 5 】

またディスペンサ 3 0 のタンク 3 2 には空気穴（図示せず）が設けられており、この空気穴と内容物容器 1 2 内とを連通させるため、下方筒状部 1 7 とタンク 3 2 との間には間隙が形成されている。

【 0 0 3 6 】

次にこのような構成からなる本実施の形態の作用について説明する。

【 0 0 3 7 】

図 1 に示すように、まずキャップ保持体 1 5 の上方筒状部 1 6 に、ディスペンサ 3 0 の保持体 3 1 を装着する。この場合、上方筒状部 1 6 の外ねじ 1 6 a に保持体 3 1 をねじ込むことにより、保持体 3 1 を上方筒状部 1 6 に固定することができる。

30

【 0 0 3 8 】

その後、内容物容器 1 2 の開口 1 2 a を覆うブルタブ（図示せず）を取外し、開口 1 2 a 内にキャップ保持体 1 5 の下方筒状部 1 7 を挿着する。同時にキャップ保持体 1 5 を内容物容器 1 2 上に被せ、キャップ保持体 1 5 の肩部 1 4 を内容物容器 1 2 の側面 1 2 c 上部に嵌合する。このようにして内容物容器 1 2 にキャップ保持体 1 5 を堅固に固定することができる。

【 0 0 3 9 】

使用に際しては、ディスペンサ 3 0 の操作ヘッド 3 4 を押圧することにより、操作ヘッド 3 4 が上下方向へ移動し、内容物容器 1 2 内の内容物がノズル 3 3 を経てタンク 3 2 へ送られ、その後内容物がタンク 3 2 から操作ヘッド 3 4 の注出口 3 4 a を経て外方へ注出される。

40

【 0 0 4 0 】

内容物容器 1 2 内の内容物が消費された場合は、上述と逆の作用により内容物容器 1 2 からキャップ保持体 1 5 を取外し、新しい内容物容器 1 2 に再びキャップ保持体 1 5 を装着する。使用後の内容物容器 1 2 は、その後廃棄されるが、内容物容器 1 2 が紙製となっているので、内容物容器 1 2 をそのまま廃棄することができる。

【 0 0 4 1 】

以上のように本実施の形態によれば、内容物容器 1 2 の交換作業および内容物の注出作業を容易且つ簡単に行なうことができる。

50

【 0 0 4 2 】

ところで、内容物容器 1 2 として円筒状のものについて説明したが、内容物容器 1 2 として四角筒状のものを用いるとともに、キャップ保持体 1 5 として四角形のものを用いてもよい（図 8 および図 9 参照）。

【 0 0 4 3 】

また、内容物容器 1 2 の開口 1 2 a は、内容物容器 1 2 の上面 1 2 の中心に配置してもよく、中心からずれた位置に配置してもよい。

【 0 0 4 4 】

さらに、内容物容器 1 2 として紙製のものを用い、キャップ保持体 1 5 としてプラスチック製のものを用い、内容物容器 1 2 をキャップ保持体 1 5 より軟質の材料で形成して、キャップ保持体 1 5 の下方筒状部 1 7 と内容物容器 1 2 の開口 1 2 a との密封性を高めるようにした例を示したが、内容物容器 1 2 とキャップ保持体 1 5 をいずれもプラスチック製とするとともに、内容物容器 1 2 をキャップ保持体 1 5 より硬質の材料から形成して、キャップ保持体の下方筒状部 1 7 と内容物容器 1 2 の開口 1 2 a との密封性を高めてもよい。

【 0 0 4 5 】

また、内容物容器 1 2 に予め開口 1 2 a を設けた例を示したが、予め内容物容器 1 2 に開口 1 2 a を設けることなく、内容物容器 1 2 にキャップ保持体 1 5 を装着する際、キャップ保持体 1 5 の下方筒状部 1 7 によって内容物容器 1 2 の上面 1 2 b を突き刺して開口 1 2 a を形成してもよい。この場合、図 4 (b) (c) に示すような下端 1 7 a の形状を有する下方筒状部 1 7 を用いることにより、内容物容器 1 2 の上面 1 2 b を容易に突き刺して開口 1 2 a を形成することができる。

【 0 0 4 6 】

さらに、キャップ保持体 1 5 の上方筒状部 1 6 には、ディスペンサ 3 0 の代わりに、密閉定量キャップ 4 0 を装着してもよく（図 6 ）、またヒンジ 4 1 a 付きの密閉ヒンジキャップ 4 1 を装着してもよい（図 7 ）。

【 0 0 4 7 】

第 2 の実施の形態

次に図 1 0 乃至図 1 4 により、本発明の第 2 の実施の形態について説明する。

【 0 0 4 8 】

図 1 0 乃至図 1 4 に示す第 2 の実施の形態は、キャップ保持体 1 5 の構成が異なるのみであり、他は図 1 乃至図 9 に示す第 1 の実施の形態と略同一である。

【 0 0 4 9 】

図 1 0 乃至図 1 4 において、図 1 乃至図 9 に示す第 1 の実施の形態と同一部分には同一符号を符して詳細な説明は省略する。

【 0 0 5 0 】

図 1 0 乃至図 1 2 に示すように、キャップ保持体 1 5 は円筒状の内容物容器 1 2 の上面 1 2 b に配置される円形状天板 1 3 と、天板 1 3 から下方へ延びて内容物容器 1 2 を外方から囲む側板 1 8 とを有している。

【 0 0 5 1 】

キャップ保持体 1 5 の側板 1 8 は、内容物容器 1 2 の外形形状に略一致するよう円筒形状を有し、側板 1 8 を内容物容器 1 2 の外方に密着して嵌込むことにより、内容物容器 1 2 に対してキャップ保持体 1 5 を堅固に固定することができる。

【 0 0 5 2 】

またこのキャップ保持体 1 5 によって内容物容器 1 2 を堅固に保護することができ、とりわけポンプにより内容物容器 1 2 の内容物を吸引する際、ポンプを押圧する力をこのキャップ保持体 1 5 によって支持することができる。

【 0 0 5 3 】

図 1 0 乃至図 1 2 に示すように、内容物容器 1 2 およびキャップ保持体 1 5 、いずれも円筒状をなしているが、内容物容器 1 2 およびキャップ保持体 1 5 のいずれも、四角筒状

を有していてもよい。

【0054】

次に図13および図14により、本発明の変形例について説明する。図13および図14に示すように、キャップ保持体15は四角筒状の内容物容器12の上面12bに配置される四角状天板13と、天板13から下方へ延びて内容物容器12の側面12c上部に係合する肩部14と、肩部14から下方へ更に延びて内容物容器12の四隅に外方から係合する4本の脚部19とを有している。

【0055】

図13および図14に示すように、4本の脚部19は内容物容器12の四隅を外方から密着して嵌まれるので、内容物容器12に対してキャップ保持体15を堅固に固定することができる。

10

【0056】

第3の実施の形態

次に図15乃至図20により、本発明の第3の実施の形態について説明する。

【0057】

図15乃至図20に示す第3の実施の形態において、容器装置10は、内容物容器12と、内容物容器12に装着されるキャップ保持体15とを備えるとともに、更にキャップ保持体15に連結されて内容物容器12をキャップ保持体15とともに囲む囲い体20を備えている。

【0058】

20

他の構成は図1乃至図9に示す第1の実施の形態、および図10乃至図14に示す第2の実施の形態と略同一である。

【0059】

図15乃至図20において、図1乃至図9に示す第1の実施の形態、および図10乃至図14に示す第2の実施の形態と同一部分には同一符号を付して詳細な説明は省略する。

【0060】

図15および図16に示すように、内容物容器12は開口12aを有する上面12aと、側面12cとを有し、全体として円筒形状を有している。またキャップ保持体15は、内容物容器12の上面12bに配置される天板13と、天板13から下方へ延びる肩部14とを有し、全体として円筒形状を有している。さらに天板13から上方に向かって上方筒状部16が設けられ、天板13から下方に向かって下方筒状部17が設けられている。

30

【0061】

図15および図16に示すように、内容物容器12を囲む囲い体20は底面20aと、底面20aから上方に延びる側面20bとを有し、全体として円筒形状を有している。このうち、囲い体20の底面20aは、内容物容器12を下方から支持するものであり、側面20bは内容物容器12の側面12cの外形と略同一形状を有し内容物容器12の側面12cを外方から密着して保持するようになっている。

【0062】

図15および図16において、囲い体20内に内容物容器12を収納した後、内容物容器12上にキャップ保持体15が装着される。この場合、キャップ保持体15の下方筒状部17が内容物容器12の開口12a内に挿入され、同時にキャップ保持体15の肩部14が囲い体20の側面20b上部に嵌まれる。

40

【0063】

キャップ保持体15の肩部14と囲い体20の側面20bは、単に嵌込まれていてもよく、肩部14の内面に内ねじを設け、側面20bの外面に外ねじを設け、これら内ねじと外ねじとを係合させてもよい。

【0064】

このようにキャップ保持体15と囲い体20とを嵌合させることにより、キャップ保持体15と囲い体20とによって、堅固に内容物容器12を保持することができる。

【0065】

50

次に図 17 により本発明の変形例について説明する。図 17 に示す変形例は、内容物容器 12 およびキャップ保持体 15 として四角形状のものをを用いるとともに、囲い体 20 を底面 20a と、底面 20a から上方に短く延びる側面 20b と、側面 20b から更に上方に延び内容物容器 12 の四隅に外方から係合する 4 本の脚部 20c とから構成したものである。

【0066】

図 17 において、他の構成は図 15 および図 16 に示すものと略同一である。

【0067】

またこのキャップ保持体 15 によって内容物容器 12 を堅固に保護することができ、とりわけポンプにより内容物容器 12 の内容物を吸引する際、ポンプを押圧する力をこのキャップ保持体 15 によって支持することができる。

10

【0068】

次に図 18 および図 19 により本発明の更なる変形例について説明する。図 18 および図 19 に示す変形例において、内容物容器 12 およびキャップ保持体 15 としては、図 10 乃至図 12 に示す円筒状の内容物容器 12 と円筒状のキャップ保持体 15 が用いられている。また図 18 および図 19 において、囲い体 20 は、底面 20a と、底面 20a から上方へ短く延びる側面 20b とを有している。囲い体 20 の側面 20b は、キャップ保持体 15 の側板 18 の内面下部に嵌合し、このようにして囲い体 20 とキャップ保持体 15 とによって内容物容器 12 を保持することができる。

20

【0069】

またこのキャップ保持体 15 によって内容物容器 12 を堅固に保護することができ、とりわけポンプにより内容物容器 12 の内容物を吸引する際、ポンプを押圧する力をこのキャップ保持体 15 によって支持することができる。

【0070】

なお図 18 および図 19 において囲い体 20 の側面に内ねじを形成し、キャップ保持体 15 の側板 18 の内面下部に外ねじを形成し、これら内ねじと外ねじを係合させてもよい。

【0071】

次に図 20 により、本発明の更なる変形例について説明する。図 20 に示す変形例において、内容物 12 およびキャップ保持体 15 としては、図 13 および図 14 に示す四角筒状の内容物容器 12 と四角筒状のキャップ保持体 15 が用いられている。

30

【0072】

また、図 20 において、囲い体 20 は底面 20a と、底面 20a から上方へ短く延びる側面 20b とを有している。囲い体 20 の側面 20b は、キャップ保持体 15 の脚部 19 に嵌合し、このようにして囲い体 20 とキャップ保持体 15 とによって内容物 12 を保持することができる。

【0073】

またこのキャップ保持体 15 によって内容物容器 12 を堅固に保護することができ、とりわけポンプにより内容物容器 12 の内容物を吸引する際、ポンプを押圧する力をこのキャップ保持体 15 によって支持することができる。

40

【0074】

第 4 の実施の形態

次に図 21 乃至図 25 により、本発明の第 4 の実施の形態について説明する。

【0075】

図 21 乃至図 25 に示す第 4 の実施の形態において、容器装置 10 は、内容物容器 12 と、内容物容器 12 に装着されるキャップ保持体 15 と、キャップ保持体 15 に連結されて内容物容器 12 を囲む囲い体 24 とを備えている。

【0076】

また囲い体 24 は、後述のように複数部分に分割自在となっている。

【0077】

50

他の構成は図 1 乃至図 9 に示す第 1 の実施の形態、図 1 0 乃至図 1 4 に示す第 2 の実施の形態、および図 1 5 乃至図 2 0 に示す第 3 の実施の形態と略同一である。

【 0 0 7 8 】

図 2 1 乃至図 2 5 において、図 1 乃至図 9 に示す第 1 の実施の形態、図 1 0 乃至図 1 4 に示す第 2 の実施の形態、および図 1 5 乃至図 2 0 に示す第 3 の実施の形態と同一部分には同一符号を付して詳細な説明は省略する。

【 0 0 7 9 】

図 2 1 および図 2 2 に示すように、内容物容器 1 2 およびキャップ保持体 1 5 は、いずれも円筒形状を有している。

【 0 0 8 0 】

また囲い体 2 4 は内容物容器 1 2 を支持する下方部分 2 5 と、内容物容器 1 2 の側方に位置する側方部分 2 6 とを有している。このうち下方部分 2 5 は内容物容器 1 2 を支持する底面 2 5 a と、底面 2 5 a から上方へ短く延びて側方部分 2 6 に嵌込まれる側面 2 5 b とからなっている。

【 0 0 8 1 】

図 2 1 および図 2 2 に示すように、囲い体 2 4 の側方部分 2 6 は、下方部分 2 5 の側面 2 5 b に嵌込まれるとともに、キャップ保持体 1 5 の肩部 1 4 内に嵌込まれ、内容物容器 1 2 の外形と略同一の形状を有している。

【 0 0 8 2 】

次に図 2 3 により本発明の変形例について説明する。図 2 3 に示す変形例において、内容物容器 1 2 およびキャップ保持体 1 5 は、いずれも四角筒形状を有している。

【 0 0 8 3 】

また囲い体 2 4 は、底面 2 5 a と側面 2 5 b とからなる下方部分 2 5 と、下方部分 2 5 から上方へ延びキャップ保持体 1 5 の肩部 1 4 内に嵌込まれる 4 本の脚部 2 7 とからなっている。この脚部 2 7 を天板 1 3 に直接取付けてもよい。

【 0 0 8 4 】

またこのキャップ保持体 1 5 によって内容物容器 1 2 を堅固に保護することができ、とりわけポンプにより内容物容器 1 2 の内容物を吸引する際、ポンプを押圧する力をこのキャップ保持体 1 5 によって支持することができる。

【 0 0 8 5 】

次に図 2 4 および図 2 5 により本発明の更なる変形例について説明する。

【 0 0 8 6 】

図 2 4 および図 2 5 に示すように、囲い体 2 4 は垂直面に沿って 2 つに分割された一对の部分 2 8 , 2 8 からなり、各々の部分 2 8 は内容物容器 1 2 を支持する底面 2 8 a と、内容物容器 1 2 の側面 1 2 c を密着して囲む側面 2 8 b とを有している。一对の部分 2 8 , 2 8 を組合わせることにより、円筒状の内容物容器 1 2 の外形と略同一形状を有する円筒状の囲い体 2 4 を得ることができる。囲い体 2 4 は、円筒状のキャップ保持体 1 5 の肩部 1 4 に嵌込まれ、キャップ保持体 1 5 と囲い体 2 4 とによって内容物容器 1 2 を堅固に保持することができる。

【 0 0 8 7 】

またこのキャップ保持体 1 5 によって内容物容器 1 2 を堅固に保護することができ、とりわけポンプにより内容物容器 1 2 の内容物を吸引する際、ポンプを押圧する力をこのキャップ保持体 1 5 によって支持することができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 8 8 】

【 図 1 】 本発明の第 1 の実施の形態による容器装置を示す斜視図。

【 図 2 】 図 1 に示す容器装置の側断面図。

【 図 3 】 ディスペンサを示す斜視図。

【 図 4 】 下方筒状部を示す図。

【 図 5 】 容器装置の組立て状態を示す斜視図。

10

20

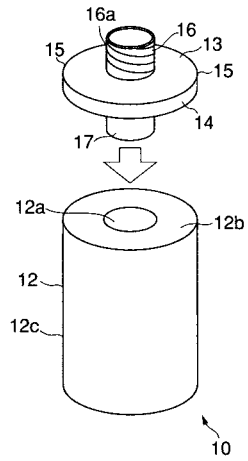
30

40

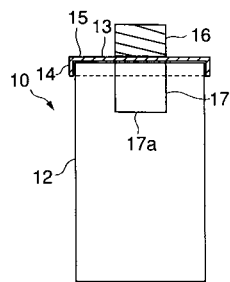
50

- 【図 6】密閉定量キャップを示す斜視図。
- 【図 7】密閉ヒンジキャップを示す斜視図。
- 【図 8】容器装置の変形例を示す斜視図。
- 【図 9】容器装置の変形例の組立て状態を示す斜視図。
- 【図 10】本発明の第 2 の実施の形態による容器装置を示す斜視図。
- 【図 11】図 10 に示す容器装置の側断面図。
- 【図 12】本発明の第 2 の実施の形態による容器装置の組立て状態を示す斜視図。
- 【図 13】容器装置の変形例を示す斜視図。
- 【図 14】容器装置の変形例の組立て状態を示す斜視図。
- 【図 15】本発明の第 3 の実施の形態による容器装置を示す斜視図。 10
- 【図 16】図 15 に示す容器装置の側断面図。
- 【図 17】容器装置の変形例を示す斜視図。
- 【図 18】容器装置の変形例を示す斜視図。
- 【図 19】図 18 に示す容器装置の側断面図。
- 【図 20】容器装置の変形例を示す斜視図。
- 【図 21】本発明の第 4 の実施の形態による容器装置を示す斜視図。
- 【図 22】図 21 に示す容器装置の側断面図。
- 【図 23】容器装置の変形例を示す斜視図。
- 【図 24】容器装置の変形例を示す斜視図。
- 【図 25】図 24 に示す容器装置の側断面図。 20
- 【符号の説明】
- 【 0 0 8 9 】
- 1 0 容器装置
- 1 2 内容物容器
- 1 2 a 開口
- 1 2 b 上面
- 1 2 c 側面
- 1 3 天板
- 1 4 肩部
- 1 5 内キャップ 30
- 1 6 下方筒状部
- 1 7 上方筒状部
- 1 8 側板
- 1 9 脚部
- 2 0 囲い体
- 2 0 a 底面
- 2 0 b 側面
- 2 0 c 脚部
- 2 4 囲い体
- 2 5 下方部 40
- 2 6 側方部
- 2 8 一对の部分

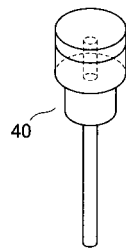
【図 1】



【図 2】



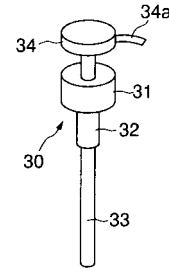
【図 6】



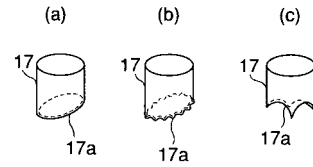
【図 7】



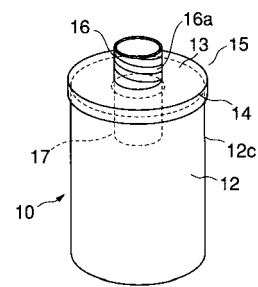
【図 3】



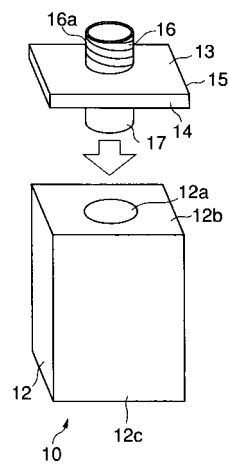
【図 4】



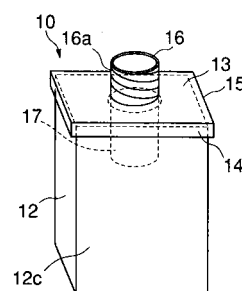
【図 5】



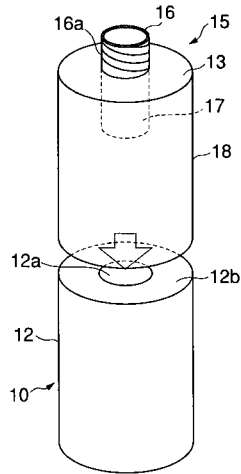
【図 8】



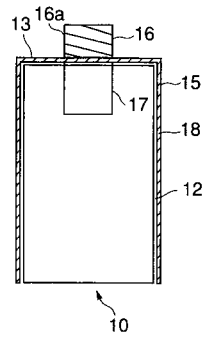
【図 9】



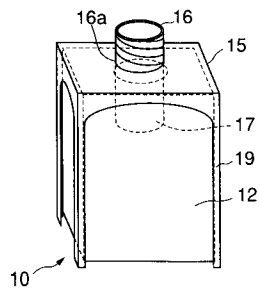
【図 10】



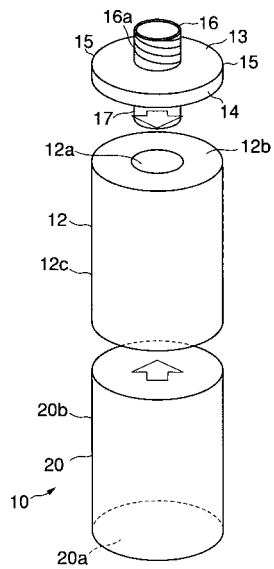
【図 11】



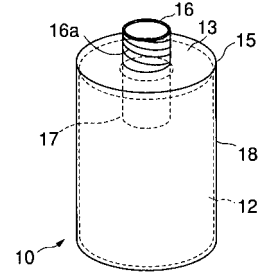
【図 14】



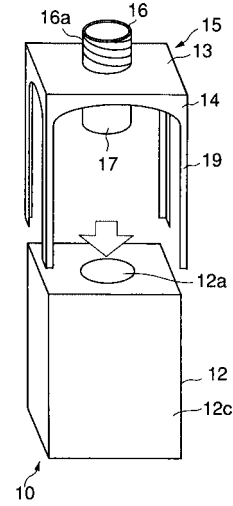
【図 15】



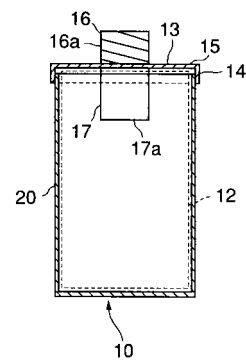
【図 12】



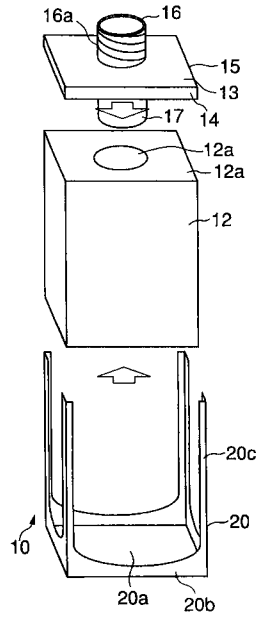
【図 13】



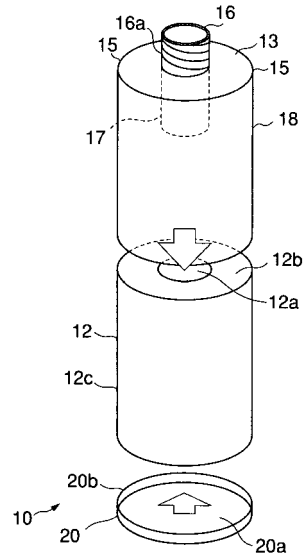
【図 16】



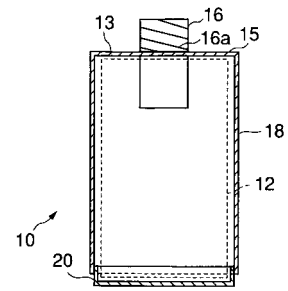
【図 17】



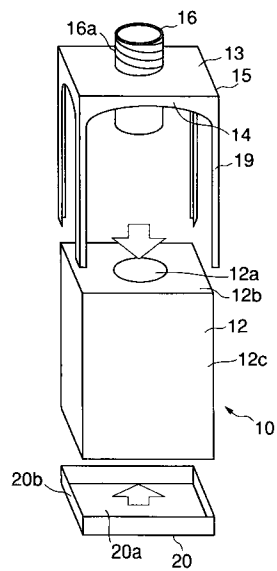
【図 18】



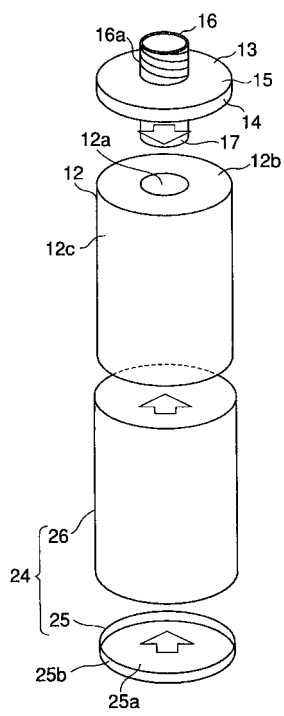
【図 19】



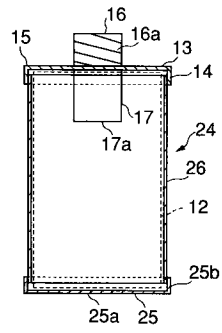
【図 20】



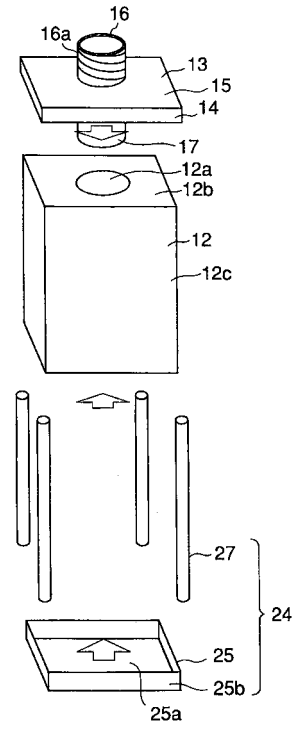
【図 21】



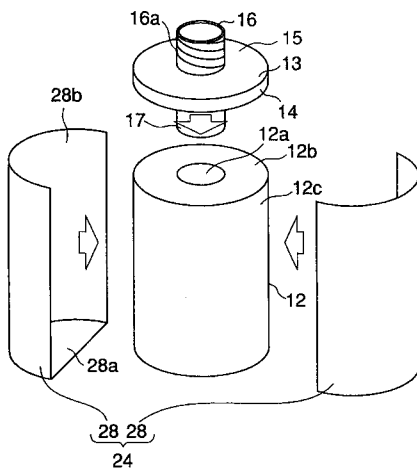
【図 2 2】



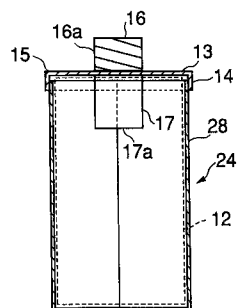
【図 2 3】



【図 2 4】



【図 2 5】



 フロントページの続き

(51)Int.Cl.		F I	
B 6 5 D	77/04	(2006.01)	B 6 5 D 77/06 L
B 6 5 D	25/40	(2006.01)	B 6 5 D 77/04 A
			B 6 5 D 25/40

(72)発明者 西 平 賢 哉
 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 大日本印刷株式会社内

(72)発明者 杉 山 有 二
 東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 大日本印刷株式会社内

審査官 戸田 耕太郎

(56)参考文献 実開平07-031671(JP,U)
 特開平07-300131(JP,A)
 特開平09-202342(JP,A)
 特開2006-298498(JP,A)
 実開平06-014054(JP,U)
 特開2006-341861(JP,A)
 実開平06-003459(JP,U)
 特開平09-086579(JP,A)
 特開平11-236084(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B 6 5 D	4 7 / 0 6
B 6 5 D	2 5 / 4 0
B 6 5 D	4 1 / 0 4
B 6 5 D	4 1 / 2 6
B 6 5 D	4 7 / 3 4
B 6 5 D	7 7 / 0 4
B 6 5 D	7 7 / 0 6